

地域の魅力
ふる里再発見

かきざきはきょう
蠣崎波響と門人たち
- 6 -

令和8年度梁川美術館企画展
「蠣崎波響と門人たち」
第Ⅱ期…7月28日(火)～9月23日(水)

蠣崎波響は、梁川松前藩の家老として14年間梁川に滞在しました。その時の門人の一人に保原出身の熊坂適山がいます。彼のもとには近隣の画人たちが集いました。

門人のひとり菅原白龍(天保4年/1833年～明治31年/1898年)は、山形県長井市時庭の神職の家に生まれました。年代ごとに源暁、智源、道雄などの名前があり、明治17年頃より白龍と名のりました。白龍は少年時代に郷土の画人・長沼月峰の下で南宗画を学びました。その後、父に遊学を願うも許されなかったため、無



「雨舟下り図」

断で家を出て、江戸に上り熊坂適山の門をたたいたと伝われます。

「白龍自筆の履歴書」には「江戸松前邸ノ画師熊坂適山ニ就テ明清ノ風ヲ究ム」と記されています。適山のもとでは、先人の画を模写しながら画法を学んだほか、画論などを書籍から読み研究を重ねていきました。作風は、伸びやかで大らかな筆致となりました。蠣崎波響から熊坂適山、さらにその門人たちへと連なる絵画の系譜は、明治時代に入っても信達地方の画人たちに大きな影響を与えました。



市長コラム 第87回

「宇宙を向いて歩こう」

結ばれる絆

須田博行

過去のコラム



去る8月9日、「第4回復興宇宙サミット2026」が檜葉町で開催されました。このサミットは、きぼうの桜計画および東北復興宇宙ミッションでつながった全国各地の仲間が一堂に会し、復興の先にある未来社会を議論し共創する祭典です。

伊達市では、令和4年10月に、宇宙を旅した山高神代桜の子桜の苗木を山梨県北斗市から寄贈いただき、市内の子どもたちの手で保原総合公園イベント広場に植樹しました。それを機に、伊達市は毎年このサミットに参加しています。植樹した「きぼうの桜(宇宙桜)」も今年4度目の春を迎え、大きく健やかに成長しています。この宇宙桜が、これから

も伊達市の復興と未来をしつかりと見守ってくれると思っています。さて、今回のサミットのテーマは「宇宙を向いて歩こう」でした。このテーマを目にしたときに真っ先に思ったのが、坂本九さんの「上を向いて歩こう」です。6月の伊達市合併20周年記念式典で、長女の大島

花子さんに歌っていただき、会場全体が大きな感動に包まれた曲です。この歌は、辛く悲しい時こそ「上を向こう、前を向こう、そして未来につなげよう」という「きぼうの歌」だと思っています。もしかすると、空でつながる全世界を意識して創られた歌かもしれないと感じました(実際、海外では「SUKIYAKI」の名で大ヒットしています)。

東日本大震災で甚大な被害を受けた福島県は、宇宙で結ばれている国内外の温かい支援でここまで復興することができました。だからこそこの絆を大切にし、今回のサミットのテーマのように、上を向いて、前を向いて、そして未来に向けた歩みを着実に進めていかなければならないのだと思っています。



▲6弁花を付ける
保原総合公園の「きぼうの桜」